



島崎 心遥ちゃん  
「パパとママがだいすき♥」  
(上野町)



亀田 玲くん  
「アンパンマン大好き」  
「我が家のやんちゃボーイ☆」  
(栃谷)



黒澤 莉愛ちゃん  
「パパが大好き♥」  
(大野原)



斉藤 英司くん  
「ジュウオウジャー大好き!」  
(大野原)



応募方法

1～1歳半程度のお子さんの写真を同封し、住所・保護者の方の氏名・電話番号・お子さんの氏名(ふりがな)・性別・生年月日・コメントを明記の上、秘書広報課までご応募ください。(メールの場合は、件名に「わが家のアイドル」、本文に必要事項を入力し、500KB以上の画像を添付の上、hisyo@city.chichibu.lg.jp まで) 抽選に漏れた方も、2歳になる月まで再抽選します。  
※携帯電話のカメラで撮影する場合は、サイズを2M(1080×1920)以上に設定してください。

夢をかなえる 未来にはばたく  
秩父地域の高校

森林科学科が被災地にベンチを寄贈  
(秩父農工科学高校)



森林科学科では、平成24年から東日本大震災の被災地へ間伐材を利用したベンチを寄贈しています。このベンチは、秩父市の羊山公園へ毎年寄贈しているものと同じものです。

7月30日、久之浜町商工会(福島県いわき市)が秩父農工科学高校を招待し、寄贈式を商業施設建設予定地で行いました。寄贈式では、ベンチを製作した森林科学科3年生の生徒5人が、秩父地域で東北被災地を支援している「ともに会」の方と出席しました。

寄贈式に参加した荒川大翔さん(秩父第一中出身)は、「実際に被災地を訪れて、被害の大きさに驚きました。復興には、まだまだ時間がかかるのだと思いました。私たちのベンチが少しでも被災地の役に立ってもらえればと思います。」と感想を話していました。

秩父農工科学高校はこれからも社会に貢献できる取り組みに力を入れていきます。

市民文芸

俳句

竹内 弥太郎 選

〔評〕8月は戦争に思いを寄せる季節、定男さんは敗戦忌を告白しました。また生命を考へさせられる時であつて、大仙さんは向日葵を通して友の忌を詠い、幸子さんは地中の長い生活から、地上に出た蟬の命の輝きを詠いました。久さんの畑地への思い、百合子さんの耕しへの気合も、読む人の心を打ちます。自然の中で心の心のはたらきを、富江さんは配達車で、美代さんは舟下りで、理江さんは袖の風で、涼しさを生みだしています。照子さんは遠火花を全霊で受け止め、晴次さんは、ひきがえるをゆつたりと表現しました。  
※次回11月号は短歌を掲載します

耕作地捨て地はならじ草むしる	黒谷 榎本 久
敗戦忌大連の叔母還らざる	中町 内田 定男
向日葵のうなだれ友の忌の近し	吉田久長 齋藤 大仙
夏木立一戸へ急ぐ配達車	上吉田 山口 富江
音もなく輪を重ねをり遠火花	上野町 櫻井 照子
行く夏を惜しみて乗りし舟下り	黒谷 中村 美代
蟬一生七日に込めて鳴き急ぐ	東町 井上 幸子
池の水番する如く蠶 <small>ひき</small> の座す	中村町 加藤 晴次
夕焼に「さて」と気合いの畑仕事	東寺尾 津久井百合子
袖で扇ぐ風や今宵の冷奴	東町 峰岸 理江

俳句、短歌の応募は、住所・お名前(ふりがな)を明記の上、必ず官製はがきで秘書広報課までお送りください。1通に2句または2首まで、各1通までです。

俳句 10月末締切→12月号に掲載  
短歌 11月末締切→1月号に掲載

お詫びと訂正  
9月号15ページ「市民文芸」の作者のお名前に誤りがありました。お詫びして訂正します。  
正 加藤 晴次 様 誤 加藤 清次 様